

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 6 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02569

研究課題名(和文) 現代オーストラリア小説から読み解く先住民とヨーロッパ人の関係性

研究課題名(英文) Unfolding Indigenous-Settler Relations in Contemporary Australian Fiction

研究代表者

佐藤 渉 (Sato, Wataru)

立命館大学・法学部・教授

研究者番号：30411143

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、ヨーロッパ人と先住民の関係を描いた文学作品が、オーストラリア人の歴史認識をめぐる葛藤を顕在化させてきたことを明らかにした。とりわけ、先住民に対する罪の意識を反映したヨーロッパ系作家の作品は、歴史とフィクションの緊張関係を前景化してきた。他方で、先住民作家は抑圧者/被抑圧者という単線的な権力関係を超越して、多面的な人種間関係を描いた作品を近年相次いで発表している。気候変動という地球規模の課題を背景に、ポスト-人種社会を構想する作家も登場している。こうした先住民作家の作品は、想起される過去を豊富化し、未来志向の人種間関係を考える糸口を提示している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、ヨーロッパ系オーストラリア人とオーストラリア先住民の人種間関係を双方の文学作品から解明しようと試みている点に独自性がある。また、文学作品を対象とすることにより、歴史学や社会学的なアプローチでは見えにくかった心理的要因に光をあてることが可能となった。さらに、歴史とフィクションのあいだに緊張関係が生じる背景を考察することにより、分野を横断した建設的な議論の可能性を示唆している。

研究成果の概要(英文)：The present study proved that contemporary Australian fiction that dealt with interracial relations between white Australians and Indigenous Australians has foregrounded competing historical conceptions. The works of white Australian writers tend to incorporate their sense of guilt toward Indigenous people and highlight the rivalry between history and fiction. On the other hand, in recent years, Indigenous writers have been depicting multi-faceted interracial relations rather than simply depicting a linear power relation between the colonizer and the colonized. There is even a writer who imagines a post-racial society against a backdrop of the climate change crisis. These works of fiction by Indigenous Australian writers will enrich the way the past is imagined and contribute to furthering future-oriented discussion on interracial relations in Australian society.

研究分野：オーストラリア文学

キーワード：オーストラリア文学 アボリジナル 植民地主義 歴史とフィクション 和解の文学

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

## 1. 研究開始当初の背景

申請者は、植民地時代の暴力的な記憶がオーストラリア先住民のあいだでどのように継承され、また表現されてきたのか、さらにアボリジナリティという概念が時代とともにどのように変遷してきたのかについて考察してきた。たとえば、初期のアボリジナル文学を代表する作家のひとり、Jack Davis の戯曲を対象とした研究では、Davis が劇中に伝統的母語や舞踏といった明示的な文化要素を取り入れることで汎アボリジナル的な集合的アイデンティティの再構築を目指していることや、複数の時間が同時に存在する空間を創出し、ポストコロニアル社会における歴史および記憶の多義性を表現していること、さらに俳優と観客が共に作り出す演劇空間において、コロニアル・エンカウンターが再現され、先住民とヨーロッパ系住民との関係をめぐる対話の契機が「今、その場所で」生起していることを論じた。ワーマン・コミュニティでのクリル・クリル儀礼誕生の経緯を検証した論文では、虐殺の記憶が儀礼や絵画の中でどのように表現されているかについて論じた。

また、科研課題「オーストラリア文学に見るグローバル化と主体性の変容」(H23-25)の一環として、先住民作家・研究者である Jeanine Leane 氏と、タスマニア先住民の虐殺を描いたヨーロッパ系作家 Rohan Wilson 氏を招き、歴史記述とフィクションの関係をテーマとしたシンポジウムを開催した。このシンポジウムでは、「歴史の真実」に対置されるフィクションの想像力について意見が交わされた。また、作家からはフィクションを歴史として読む危険性についても指摘がなされた。このシンポジウムでの人種をめぐる歴史と記憶の関係についての議論が、本研究を構想する重要な契機となった。

他方で歴史研究の分野では、植民地社会における人種関係について、多面的な研究が行われてきている。たとえば、先住民コミュニティと非ヨーロッパ系コミュニティの接点や、初期の捕鯨産業における先住民と入植者の友好的な関係についても理解が深まりつつある。このように、植民地主義社会における多様な側面に光が当てられつつある中、文学においても何らかの変化がみられるのかという問題意識も抱えていた。

## 2. 研究の目的

本研究では、2000 年以降にオーストラリアで出版された小説をおもな研究対象とし、フィクションという言説によって描かれてきた先住民とヨーロッパ系オーストラリア人の関係について、先住民作家とヨーロッパ系作家双方の作品から検証する。それぞれの作品に描かれた関係性から浮かび上がる歴史認識や、これらの作品と和解をめぐる言説との関係について考察することにより、歴史認識の変遷や差異、歴史と記憶の相克を浮かび上がらせ、現代オーストラリアの錯綜した自己意識や、他者への不安や欲望を明らかにすることを目的とする。

## 3. 研究の方法

本研究では、対象となる小説作品の選定と収集を行い、作品の読解を軸に分析を行った。同時代文学の新展開を明らかにすることも目指していることから、2000 年以降にオーストラリアで出版された小説を対象とし、先住民とヨーロッパ人の接触が描かれている作品を選定し、時代設定、登場人物の属性、両者の関係、作品から読み取れる歴史認識などを検証していった。また、先住民作家を招いて研究会やインタビューを実施し、作家の歴史意識と創作の関係について知見を深めた。

2017 年度と 18 年度は一次資料と二次資料の収集と分析を行った。文学作品や作家の情報収集にはオーストラリア文学のデータベースである AustLit を活用し、とりわけ最近の文学作品の出版情報については書評誌 *Australian Book Review* を活用した。2018 年 2 月にはキャンベラを訪問し、オーストラリア国立大学で資料収集を行い、オーストラリア国立大学先住民歴史研究所の Maria Nugent 教授に面会して助言を得た。また、パースの西オーストラリア州立図書館で捕鯨産業における先住民の経験についてリサーチを行うと共に、西オーストラリア大学で開催された Writers' Festival に参加し、情報収集を行った。同じく 2018 年には、先住民作家の Kim Scott の来日にあわせて研究会を開催し、インタビューを実施した。

最終年度となる 2019 年度には、先住民系の作家であり歴史研究者でもある Tony Birch 教授を招聘し、東京と京都で研究会および公開講演会を開催し、インタビューを実施した。

## 4. 研究成果

本研究で明らかとなったのは、第一に先住民とヨーロッパ人の関係を描いたヨーロッパ系作家の作品において、先住民に対する罪の意識と、贖罪および和解への願望がしばしば読み取れることである。この傾向は前世紀の半ばから見られた。たとえば、Judith Wright の詩や、Randolph Stow の小説 *To the Islands* は、先住民に加えられた暴力への罪の意識に貫かれており、謝罪と和解の可能性をテーマとしていた。オーストラリア社会では 1960 年代以降、先住民の権利運動が勢いを得て、それに呼応するように和解の機運も高まりを見せていた。Stow や Wright の文学はこうした機運を先取りし、後押しする役割を果たしていたと言える。和解の機運は 2000 年

にシドニー・ハーバーブリッジで行われた「和解のための行進」でピークを迎え、その後はやや下火となっている。

文学の領域では、作品の数こそ少ないものの、2000年以降もヨーロッパ系作家によって贖罪と和解への願望を反映した作品が出版され続けている。たとえば Gale Jones の *Sorry* (2007) は、タイトルが示唆しているように、まさしく謝罪をテーマとした作品である。作品の背景は第二次大戦前後の西オーストラリア州である。白人の少女が乱暴を働こうとした父親を誤って刺殺してしまうが、アボリジナルの少女がすすんで罪を被り、身代わりとなって投獄される。白人の少女は事件の前後の記憶を失っているが、時を経てその記憶が甦るという内容である。小説中の現在における事件と、植民地時代の暴力およびその忘却が重ね合わされていることは明らかである。この作品で注目すべきは、主人公が二人の少女であるという点である。白人の少女は男性が行使する暴力の被害者であるが、凶らずも忘却によって「加害者」にもなってしまう。この作品の現代的な特徴は、女性の悲しみと連帯が軸となっており、植民地主義をジェンダーの視点から問題化しているところであろう。もうひとつ注目すべき作品として、Kate Grenville の歴史小説、*The Secret River* (2005) (邦題『闇の河』) を挙げることができる。19世紀初頭の入植者を主人公に、入植者たちによる先住民の虐殺と隠蔽を描いた作品である。*Sorry* では記憶喪失によって忘却を表現していたが、この作品では意図的な隠蔽が描かれる。建国神話に隠された歴史の暗部をフィクションの想像力によって描き出した作品である。本作品には、虐殺の場面が驚くほど克明に描き込まれているが、そこに作者が先住民に対して抱いている、深い罪悪感を読み取ることができる。この作品は、植民地主義の歴史解釈をめぐる「歴史戦争」でも取り上げられ、一部の歴史家から強い批判を受けた。この論争によって明らかとなったのは、history と story を混同することに対する強烈な拒絶反応である。そこには過去という領土を誰が「管理」し、「所有」すべきなのかという、ポストコロニアル的な問いが潜んでいる。ヨーロッパ系オーストラリア文学はこのセンシティブな問題を果敢に取り上げ、議論の契機を提供している一方、いまだにヨーロッパ人と先住民の関係を加害者と被害者という枠組みの中で描く傾向が強く、多様な交渉のかたちを描き得ていないこともたしかである。なお、Grenville の *The Secret River* に潜在している贖罪と和解への願望に着目し、2017年度のオーストラリア・ニュージーランド文学会研究大会において口頭発表を行った。

ヨーロッパ系作家の作品とは対照的に、近年の先住民作家の作品では人種間の多様な関係が描かれるようになってきている。たとえば、現代オーストラリアの代表的な作家のひとりである Kim Scott は、*That Deadman Dance* (2010) (邦題『ほら、死びとが、死びとが踊る』)において、「友好的なフロンティア」と呼ばれる西オーストラリア州アルバニー近辺で捕鯨に従事していた先住民とヨーロッパ人のあいだの一時的な友好関係を描いている。この作品は、歴史研究者 Tiffany Shellam の著書、*Shaking Hands on the Fringe: Negotiating the Aboriginal World at King George's Sound* (2009) にインスピレーションを得て執筆された。Grenville の作品が歴史研究と文学の相克を際立たせたのは対照的に、新しい歴史研究の成果がフィクションのテーマを広げた例である。Scott は来日時のインタビューの中で、攻撃的な言説は何も生まないことに気づいたことに触れている。作品の主要テーマのひとつは人種間コミュニケーションである。主人公であるアボリジナルの青年は、高いコミュニケーション能力を持っており、イギリス人入植者たちと友好関係を築くことに成功するが、言語を介したコミュニケーションはやがて両者の断絶を生む。主人公は最後にダンスという身体言語によってコミュニケーションを図ろうとするが、この試みも失敗に終わる。コミュニケーションおよびその断絶をテーマにしているという点でも、この小説は新機軸を打ち出していると言えよう。Scott へのインタビューは『南半球評論』で公表した。

世界的に評価の高い先住民作家である Alexis Wright も従来の先住民文学とは一線を画した小説を発表している。Wright はマジック・リアリズムの手法を駆使した作風で知られ、前述の Scott と共に、社会リアリズム的な作品やライフ・ストーリーが中心だったアボリジナル文学に変革をもたらした作家である。最新作の *The Swan Book* (2013) は、気候変動により環境が激変した近未来のオーストラリアが舞台である。主人公である言葉を失った先住民の少女は、「人間のゴミ捨て場」と化した大陸北部のアボリジナル・コミュニティでヨーロッパからの難民である女性と暮らす。政治的サティアであり、世界各地の神話や伝説が織り込まれた本作品は、気候変動という地球規模の危機を見ずえた環境小説でもある。政府による北部地域への介入など、現代オーストラリアの政治状況を描き込みつつ、「人種後 (“post-racial”）」の世界を描いた新しいジャンルの先住民文学である。

同じく先住民系作家の Tony Birch は大学で教鞭をとる歴史研究者でもある。アボリジナルを主人公にした作品は少なく、日常生活の思いがけない瞬間を無駄のない文体で描いてきた作家であるが、最新小説 *The White Girl* (2019) は「盗まれた世代」として知られる混血の子弟を対象とした同化・隔離政策を背景としている。混血の先住民の少女とその祖母による、保護の名の下に少女を隔離しようとする警官からの逃避行を描いている。テーマ設定も文体もオーソドックスな作品であるが、先住民女性の強さを湛えている点が特徴的である。2019年に Birch を招聘し、東京と京都で研究会と講演会を開催した。また、来日時にインタビューを行い、『立命館

文学』で公表した。

これらの作品は現代オーストラリア人が抱えている歴史認識をめぐる葛藤を顕在化させ、議論の触媒となってきた。とりわけ先住民に対する罪の意識を反映したヨーロッパ系作家の作品は、ポストコロニアル社会で顕著な歴史とフィクションのあいだの緊張関係を露呈させることにもなった。しかし、歴史をめぐる論争は、あたかもコロニアリズムを模倣するかのよう、過去という領土をめぐる闘争に矮小化されがちであり、必ずしも生産的とは言えなかった。一方で、先住民作家は抑圧者／被抑圧者という単線的な権力関係を超越して、多面的な人種間関係を描いた作品を発表してきている。さらには、気候変動という地球規模の課題を背景に、ポスト-人種社会を構想する作家も登場している。こうした先住民作家の作品は、想起されうる過去を豊富化し、未来志向の人種間関係を考える糸口を与えてくれるであろう。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 佐藤 渉	4. 巻 6
2. 論文標題 "The place was speaking"- Kate Grenville, The Secret Riverにおける風景描写	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ことばとそのひろがり	6. 最初と最後の頁 265-279
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤 渉	4. 巻 33
2. 論文標題 作家キム・スコットに聞く	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 南半球評論	6. 最初と最後の頁 56-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤 渉	4. 巻 667
2. 論文標題 トニー・バーチの文学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立命館文学	6. 最初と最後の頁 129-137
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 佐藤 渉
2. 発表標題 オーストラリア文学に描かれた日本人真珠貝ダイバー ハーパートの短編「ミス・タナカ」とロメリルの戯曲『ミス・タナカ』
3. 学会等名 立命館土曜講座
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤 渉
2. 発表標題 "The place was speaking"- Kate Grenville, The Secret Riverにおける風景描写
3. 学会等名 オーストラリア・ニュージーランド文学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----